

教育センター通信

第4号(通算 131 号)
令和7年7月29日

三条市教育委員会
教育センター発行

ほ
ど
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育
トップページ



三条市小中一貫教育 「原点回帰」と「再創造」

教育センター 統括指導主事 畑 宏幸

「みんなでつくる 三条市の小中一貫教育」を表題に、三条市の小中一貫教育についての研修会を、校長、教頭、各校の小中一貫教育コーディネーターの方々それぞれを対象に今年度3回実施しました。その中で、各学園・学校でのより一層の推進をお願いしました。感染禍を受けて、三条市の小中一貫教育の活動が足踏みをしている現状をなんとか回復したいと考えているからです。まず、三条市が小中一貫教育を始めた当時の思いやねらい等を確認いただくために、教育長講話を設定しました。そして、三条市の小中一貫教育の原点に立ち戻り、先輩の先生方から脈々と受け継がれてきた各学園・学校の小中一貫教育の財産を大切にしながら、今の時代に合った「新しい三条市の小中一貫教育」をみなさんと一緒に、再創造していくをお願いしました。現在、各学園・学校で様々な場面で見直しをしていること心から感謝いたします。

教育長講話では、三条市の小中一貫教育は、①「情報連携」②「行動連携」そして、特に③「カリキュラム連携」が小中一貫教育の「命」であることが伝えられました。①、②は他のどの学校でも行っています。三条市では、「カリキュラム連携」により、9年間の学びと育ちを意識することを大切にしています。具体的には、保育園・幼稚園でどう学んできて、小・中・義務教育学校でどう学び、15の春である高校でどう学んでいくのかを明確にイメージすることです。学習指導では、「これまで」「ここでは」「これからは」の3つの視点で、小・中・義務教育学校の先生方で対話を通して、9年間を見通した指導を共有いただきたいと思います。今年度、各学園の「指導の構想」と「学びの系統表」の見直しをお願いしています。作成が目的ではありません。学園の研修会等で、先生方同士の対話を通して、子どもだけでなく、先生方にとっても価値のあるカリキュラム連携になることをお願いいたします。

最後に、カリキュラム連携に関して、平成25年7月に発行された「教育センター通信」の巻頭言に、当時の小中一貫教育推進課 高橋邦彦課長の寄稿があります。次の二次元コードから御確認いただき、小中一貫教育の「再創造」に御協力をお願いいたします。



学園紹介

四つ葉学園

6月24日（火）に、旭小学校の体育館にて小6交流会を行いました。今年度の内容は、アルビレックスランニングクラブから講師をお招きした陸上体験会です。講師が2名来校し、走り方について指導してくださいました。準備運動では他校の児童と足を使ったジャンケンゲームをするなど、活動が進むにつれ子どもたちの緊張感がほぐれ、交流を深めることができました。その後、大きくスキップをして前に進んだり、前傾姿勢でスタートダッシュをしたりと、講師の方から速く走るためのコツを教えていただき、始めよりも走り方が向上したようです。1時間程度の短い時間ではありましたが、この行事の目的であった「全力で取り組む」「交流する」「感謝の気持ちをもつ」の3つを達成することができました。



陸上体験会(準備運動)



陸上体験会(短距離走の練習)

三条おおじま学園

6月27日（金）、大島中学校体育館を会場に「絆」スクール集会を開催しました。今年度は、県の「いじめ見逃しゼロキャラバン」の事業と併せて開催し、前半は県内出身のシンガーソングライター・鈴木太郎さんを講師として講演会を行いました。鈴木さんからは、経験談や歌を交えながら、「いじめのない学級」づくりについてご講演をいただきました。「ポジティブな声かけで明るい雰囲気をつくろう」と呼びかけ、子どもたちにもマイクを向けるなど、温かい雰囲気の中で進めていただきました。

後半は、小中学生が混じった縦割り班に分かれ、「あったかるた」の作成に向けて話し合いました。中学生のリーダーを中心に「かるたに掲載する温かい言葉」について、みんなで真剣に考え、意見を出し合い、交流を深めました。

実施後のアンケートでは、「今回の活動を通して、自分たちの力で『一人一人が居心地のよい三条おおじま学園』をつくろうとする気持ちが高まった」と回答した児童・生徒の割合が98%で、肯定的評価が得られました。また、「毎日一緒にいる友達だからこそ気付けることがあることを教えていただいた」「ポジティブな声かけで明るい雰囲気づくりがしたい」などの記述が見られ、今後の生活や自分の行動に意欲が感じられました。



鈴木太郎さんのご講演



「あったかるた」の言葉の練り上げ

しただの郷学園

学園内の全小学校の5・6年生合同で、しただの郷学園自然体験学習を行いました。7月2日(水)～3日(木)、国立妙高青少年自然の家にて、オリエンテーリング、キャンプファイヤー、クラフト活動などに取り組みました。子どもたちにとっては不慣れな大集団での生活でしたが、交流活動を通じて中学校入学後の仲間のことを知ることができ、これからの絆を深めることができました。また、活動班や宿泊班においては、集団の一員として責任をもって行動する子どもたちの姿が多く見られ、確かな成長を感じることができました。



学園5・6年生全員で「朝のつどい」



5校の仲間とのキャンプファイヤー

教職員研修

WEBQU研修②

令和7年6月20日(金)開催

「WEBQUを活用した事例検討会の進め方」というテーマで、早稲田大学教育・総合科学学術院 伊佐貢一様を講師に、WEBQU結果データの見方や生かし方、校内事例検討会の進め方のポイントについて学びました。

研修前半で伊佐様は、次の課題があることにふれられていました。「最近のWEBQU調査結果の全国的な傾向として、小学校1年生の学校適応と集団づくりが難しくなっている。どの学年でも集団で学習意欲が低下する『学習無動機』という学級が増えている。学年の発達課題や問題を解決できないまま次の学年へ引き継いでいる。」

その上で、校内事例検討会を、「自分の実践を俯瞰し、学級づくりについて教職員が学び合い高め合う場」「学級担任が元気になるように、問題解決志向で具体的なアイデアを出し合う場」にしてほしいという御指導をいただき、参加者は大きく頷いていました。

研修後半では、仮想学級のWEBQU結果データを使って、小グループに別れて実際の検討会を模擬体験しました。実際の流れを経験することで、参加者は各学校で検討会を進める上でのポイントを具体的に理解することができました。

■参加者の感想(一部抜粋)■

- WEBQUの活用の仕方を実際に端末を操作しながら研修することができたのがとても良かった。
- WEBQUや学級経営について、2年目の段階で聞くことができたのは大きかった。ぜひ、若手や新採用に向けて研修を開いていただきたい。
- WEBQUの見方や結果をどのように生かすのか悩むところであったが、今回の研修会を受けて、分かるようになった。他の参加者と話す中で多様な方法があると納得しながら取り組むことができた。



道徳科授業研修

令和7年6月24日（火）開催

「道徳授業をどうつくるか」というテーマで、教科教育専門監の長岡市立脇野町小学校 西脇 悠太 教諭を講師に、道徳科における授業づくりにおいて大切にしたいことを学びました。

特に、道徳的価値の理解における3つの中でも、「人間理解」を大切に、「とはいえ…」という人間の弱さを互いに認め合える姿を育てたいという西脇先生の熱い思いに、多くの先生方が共感していました。

また、数多くの実践を紹介していただき、授業づくりのポイントも教えていただきました。中でも、教材や価値について「自分なりのひっかかり」にこだわるのが、子どもが自分事で考える主体的な姿につながるという御指導もいただきました。

■参会者の感想（一部抜粋）■

- 「共感的理解」のおさえが自分には足りないと思いました。だから、自分事になりにくいのかなど考えました。授業づくりの上で様々なご示唆をいただき、ありがとうございました。自分の実践を振り返る点でもとても有意義な研修でした。
- 教材研究の上での授業者のひっかかりというのが印象的であり、それが、授業づくりの上で重要であることが分かりました。



CSディレクター等研修①

令和7年6月19日（木）開催

「三条市の特色を生かした、地域とともにある学園・学校づくり～コミュニティ・スクールの推進～」と題して、CSディレクターや学園・学校運営協議会委員の方々から参加いただき研修を行いました。

最初に、今年度、三条市が重点としているキャリア教育について説明しました。「異学年交流」と「地域をフィールドとした教育活動」による、「実社会とつながる体験活動」の充実に向け、学校への御協力をお願いしました。その後、「実社会とつながる体験活動や地域学校協働活動を充実させるためには？」というテーマで、小グループに分かれて情報交換を行いました。グループ協議では、「学校から協力を投げかけられれば動くが、自分たちからは動けていない」という反省や「地域とつながりたいと思う子どもが一定数いるので、子どもの声を大切に、協働活動を考えていく必要がある」「各学園の連携状況をもっと共有、分析し、運営協議会が主体となって活動してはどうか」などの意見がでました。

第2回の研修会を2月20日（金）に、学校担当者と運営協議会委員の方々を対象に実施します。今年度の取組を受け、次年度に向けた各学園の計画について意見交換を行います。

